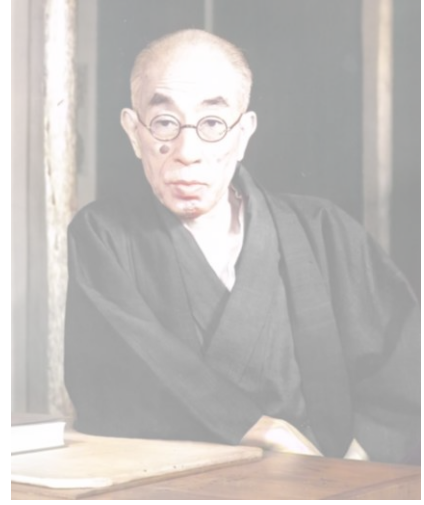


文芸評論家

富岡幸一郎さん講演会

島崎藤村の 『夜明け前』を読む



島崎藤村は信州木曾の中山道馬籠に生まれた近代日本文学の代表的な文学者です。代表作『夜明け前』では、日本人とは何か、日本近代化とは何か、という明治維新以後のこの国の歴史を雄渾な筆致で描いています。文学がその時代の思想を体現する。その時代的な意味を読み解いてみたいと思います。

2024/10/6(日)

14:00－16:00 開場13:30

塩尻市保健福祉センター

3階 市民交流室

定員 /130人 (先着順)

申込開始 / 9月8日(日)

申し込み

メール、電話 (0263-53-3365) のいずれか。
メールの場合は次の内容をお送りください。

- 宛 先 tosho@city.shiojiri.lg.jp
件 名 「10/6 本の寺子屋申込」
本 文 1 参加者全員の氏名(フリガナ)
2 代表者電話番号
3 お住まいの地区
4 この講演会を知ったきっかけ

富岡 幸一郎 (とみおか こういちろう) | 文芸評論家

1957年、東京生まれ。

中央大学文学部フランス文学科卒業。在学中の21歳のとき文芸雑誌『群像』の新入文学賞評論部門優秀作を「意識の暗室－埴谷雄高と三島由紀夫」で受賞、文芸批評活動を始め。著作に『戦後文学のアルケオロジー』『内村鑑三』『使徒的人間－カール・バルト』『入門三島由紀夫』『天皇論－江藤淳と三島由紀夫』『危機の時代の宗教論』『石原慎太郎の時の時』など多数。現在、関東学院大学国際文化学部教授、神奈川近代文学館理事。

